



道木田の蔵座敷
そのまま住む事を
許されたが……





三好ゆきは、
初潮も迎えぬうちに
道木田の隠居、清造の
後妻、つまり……



四番目の
妻となつた。



村中に広まる下卑た
噂に違ふ事無く、



狒々親父によつて、
未熟で幼い少女の身体は
正しい意味でそのすべてを



舐め尽くされ

穢され

孔を

ありとあらゆる
突起を、くぼみを、

犯された

そして、
清造は死んだ。

蝨の穴蔵

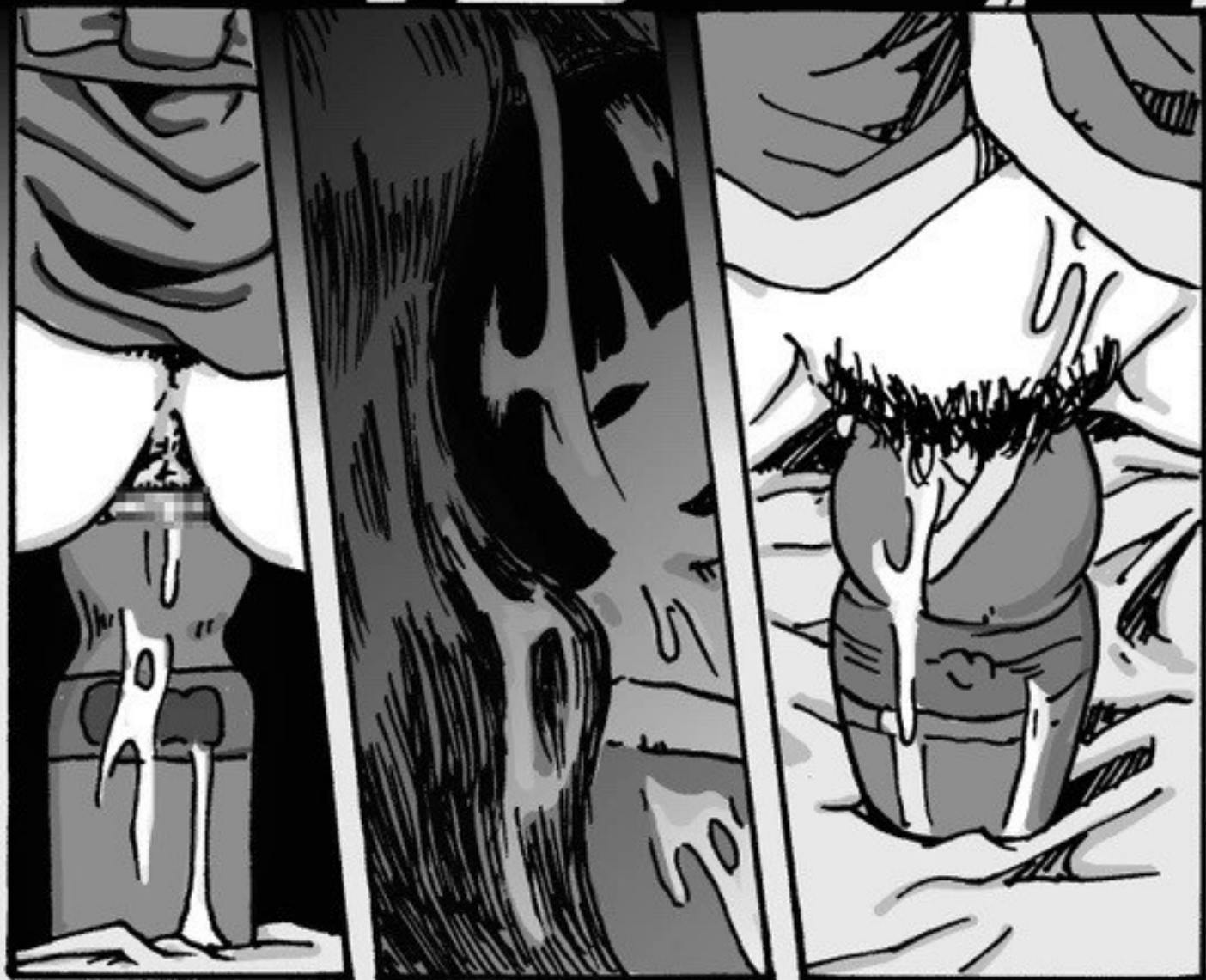


ゆきは

清造との約束は
反古にされ……

道木田の蔵座敷に
そのまま住む事を
許されたが……

穢れを隠すかのよう
に蔵の戸は固く閉じられ、
ゆきが蔵から出る事は
禁じられた。





うぐ……

う……

う……

う……

ゆきは

う……

う……

う……



清造に与えられ
開発された快楽を



ううっ!!

忘れられず

あぐっ

ぐりっぐりっ

あっ、ああう!!



いぎっ

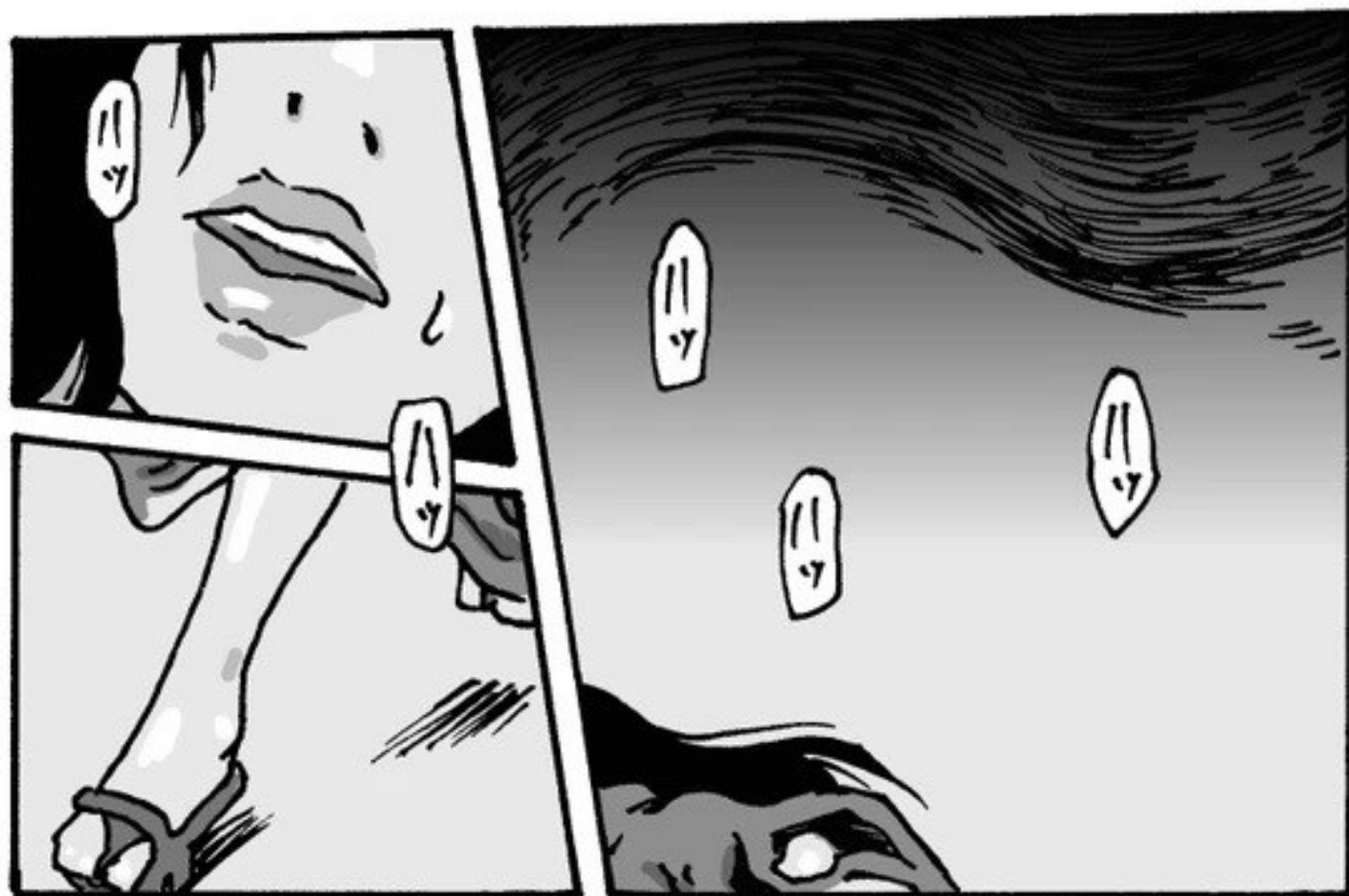
ひっ

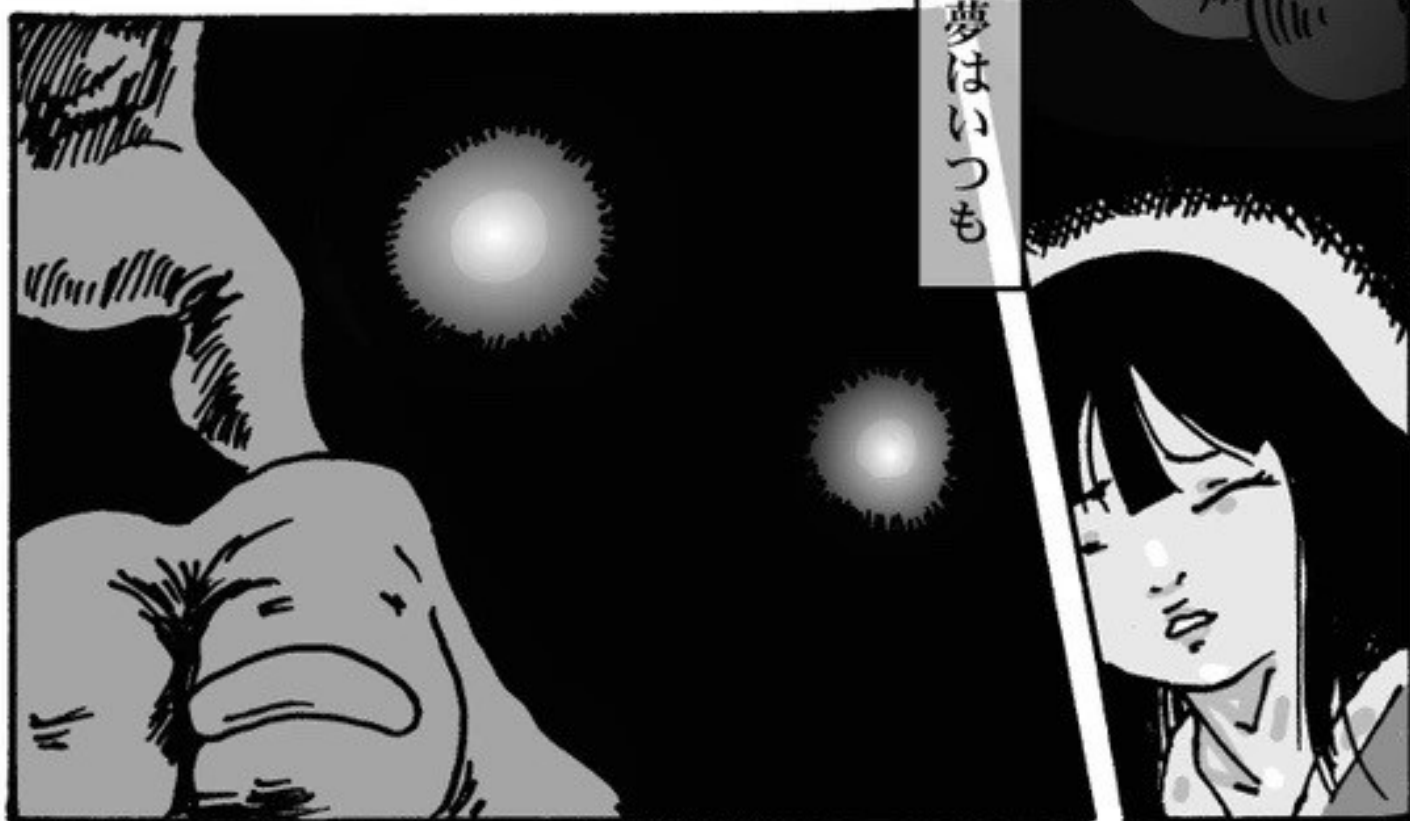
昼夜を問わず、
変態的な自慰を
繰り返していた。

あっ……っあう

あうう







夢はいつも



はー

はー

淫らで

はー

あ・・・

ミ
キ
イ

あひっ...

激しく

太っ

あ
あ

執拗に

あ
あ
っ
裂
け
る
っ
!!
も
う
無
理
い
……
っ
!!





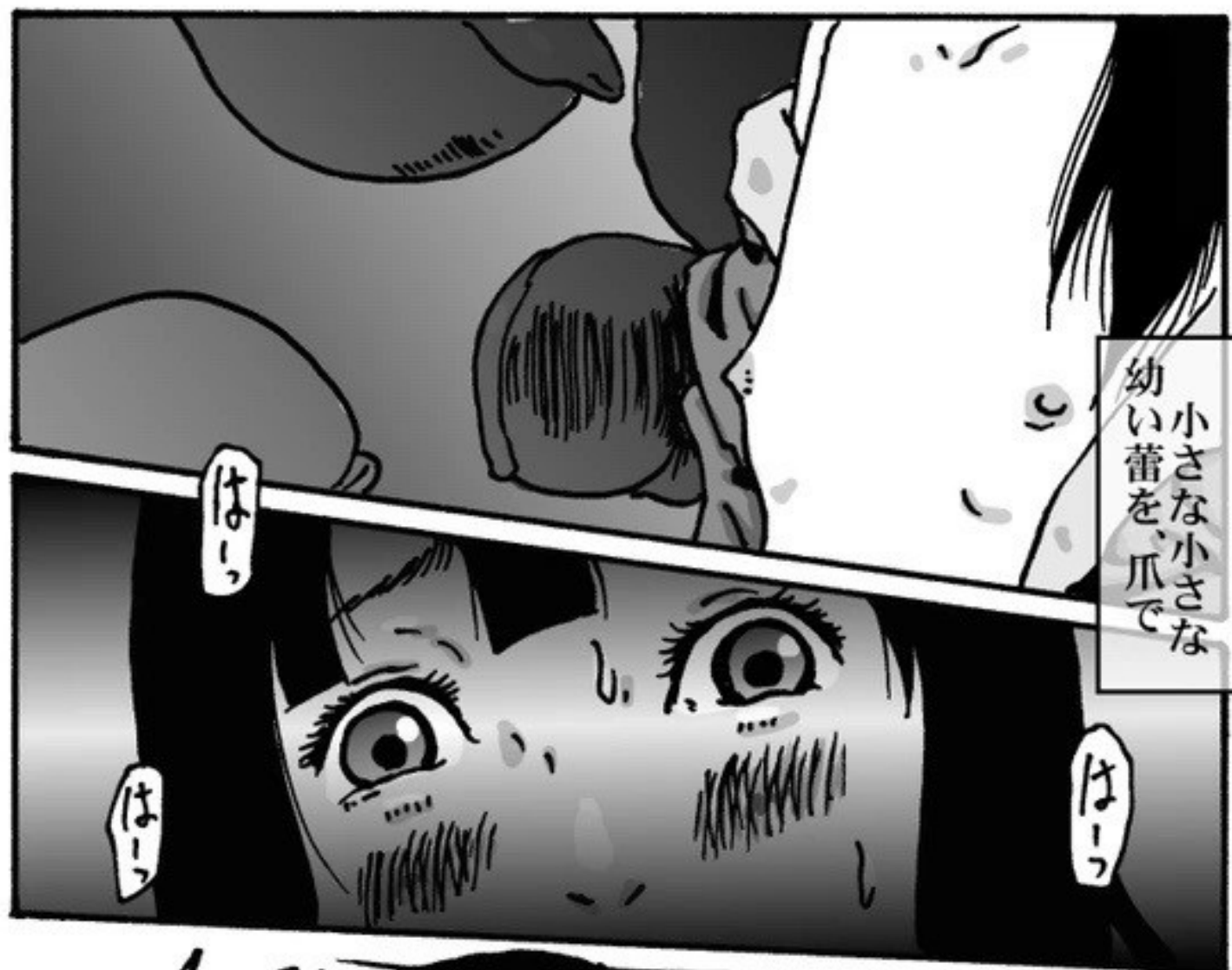
ゆきを狂わせ、
乱れさせた。

あぁ……っ太いっ

あうう

はあう





小さな小さな
幼い蕾を、爪で

はー

はー

はー



潰れる程に
強く抓まれると

あっ!!

ゆきは達し

きりッ

……つくうっ!!



女陰と肛門を
太く深く挟られると

ゆきは達し

子宮と尻孔とを
隔てる薄い肉壁を
擦られると

ゆきは達し

獣のような
声をあげて

あああ
あつ

おつ、ああ

何度も、何度も

ゆき、は
達し続けた。

旦那様あああ

そして

夢から
覚める

